

地域医療連携 ニュース



樽本院長補佐(写真右)と感染対策室スタッフ

Contents

ご挨拶 (P.2)

院長補佐のご挨拶

重症下肢、下肢閉塞性動脈硬化症の治療 (P.2)

診療科のご紹介 (P.3)

整形外科・脊椎外科／東洋医学科

医師のご紹介 (P.4-5)

小児科／血液内科／泌尿器科

外科・消化器外来センターに関するお知らせ (P.5)

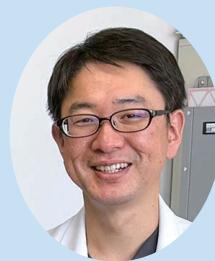
看護部から (P.6)

認知症看護認定看護師の活動紹介

診療連携シンフォニーを開催しました (P.6)

医療機関の方へ (P.7)

提携医療機関・登録医制度及びインターネット
予約(カルナ予約)について／予約センター(電
話初診予約)について



新年あけましておめでとうございます。昨年は連携施設の先生方に大変お世話になりありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、大学病院において感染対策を担当させていただいております。新型コロナウイルス感染症の診療や感染対策に係る連携について、特に5類感染症に指定されるまでは、先生方には大変ご協力頂き、ありがとうございました。現在、当院では埼玉県からの委託を受け、感染対策に係る相談窓口を開設して相談をうけるとともに、県内の医療従事者の方々への感染対策に係る教育や実習の場を提供させて頂いております。連携施設の先生方におかれましても、感染対策でお困りのことがございましたら、お気軽にご相談くださいますようお願い申し上げます。それでは、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

重症下肢、下肢閉塞性動脈硬化症の治療

血管外科 診療部長 松本 春信 外来☎：049-276-1285

下肢閉塞性動脈硬化症は間歇性跛行を呈する疾患として有名ですが、近年、虚血性創傷（皮膚潰瘍、壊死）を伴う糖尿病患者さんの増加が問題となっています。虚血性創傷は大切断となるリスクが高く、救肢には血行再建が必要です。血管内治療の進歩により、下腿以下の細い動脈に対してもカテーテル治療が可能となり、血管外科医の他、血管内治療医も治療に加わることで、数多くの患者さんが切断を回避できるようになりました。しかし、カテーテル治療困難な高度石灰



図1 虚血性創傷（潰瘍・壊死）

化症例や早期再狭窄など、解決されていない問題も残されています。バイパス手術は手術侵襲が大きいですが、長期間安定した血行を維持することが可能であり、予後の期待できる患者さんや大きな組織欠損、感染を有する症例、血管内治療

困難・再狭窄例などで

はよい適応です。また、血行再建だけでは創傷治癒が得られないことが多く、創傷治療医をはじめとする関連する診療科・コメディカルの協力による集学的治療によって救肢が達成されます。血管外科施設は限られておりますが、当院では積極的に末梢バイパスに取り組み、院内関連部門に協力いただき、一人でも多くの患者さんの足を守るべく治療にあたっております。下肢動脈閉塞をはじめ、血管疾患にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご相談ください。

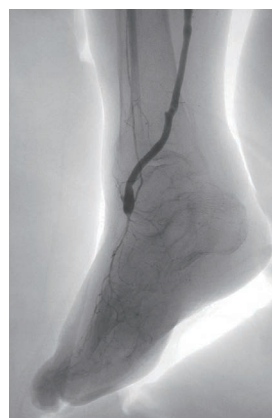


図2 末梢動脈バイパスの血管造影写真（足背動脈バイパス）



診療科のご紹介

整形外科・脊椎外科 診療部長 門野 夕峰 (カドノ ユウホ) 外来☎ : 049-276-1289

当科では、人が自立するために重要な運動器の診療を行っています。昨年、新たに人工膝関節全置換術に手術支援ロボットを導入し、より正確な手術を行い、術後の回復も早くなっています。今後は人工股関節全置換術にも応用していく予定です。人工関節置換術だけでなく、骨切りを用いた関節温存手術も行っていますが、寛骨臼回転骨切り術においてはCTベースのナビゲーションを用いて、安全な手術を心掛けています。脊椎手術においては、高度変形を有する症例に対してOアームを導入して、安全なスクリュー挿入を行っています。

超高齢社会のわが国では、自分で動けるように健康寿命を延ばすことが課題になっています。より安全に手術を行うことで、手術治療の選択肢を拡げていきたいと考えています。地域の医療機関や院内他科と情報共有しながら、診療連携を進めて地域の皆様のお役にたてれば幸いです。



診療部長からのメッセージ 診療部長：門野 夕峰

新年を迎え、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日頃より患者さんをご紹介いただきありがとうございます。今後、一層の診療連携をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

東洋医学科 教授 鈴木 朋子 (スズキ トモコ) 外来☎ : 049-276-1193

埼玉医科大学病院東洋医学科は、漢方薬治療を行う漢方部門と針灸治療を行う鍼灸部門の二つから成る診療科であります。漢方薬と鍼灸の両者を備える大学病院は全国82医科大学の中でも数えるほどしかなく、わが校の特徴とも言えるものです。東洋医学的治療は、日本の伝統医学として人間本来の治癒力を引き出すことを主眼としており、一人一人に合わせて処方や施術を行うことが基本のテーラーメイド医療であります。鍼灸部門では主にはり治療がメインで、非常に細いディスポザブル鍼を用いて刺入による痛みを感じる事がほぼない施術を行っております。頭痛や肩こり、顔面神経麻痺、肋間神経痛、坐骨神経痛などの疼痛治療や、がん治

療に関連した痛み、しびれや食欲不振などの症状にも対応しています。漢方部門では、冷えや月経困難症、コロナ後遺症、頭痛や原因不明の疼痛、便秘異常、フレイル・サルコペニアなど、現代医学的治療法のないものや、現行の治療にアドオンして効果を期待したい場合などに幅広く対応しております。



外来陪席風景

診療部長からのメッセージ 診療部長：鈴木 朋子

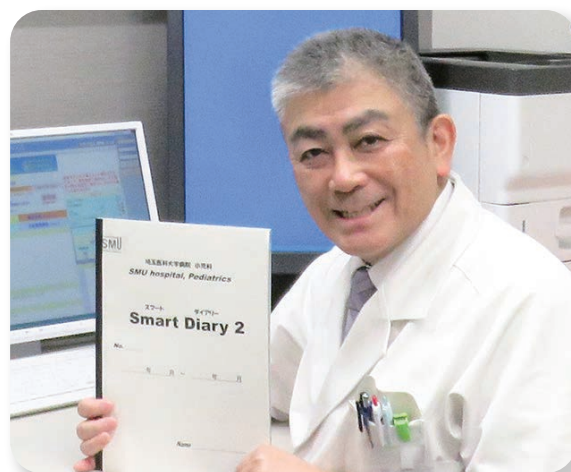
漢方部門・鍼灸部門ともに、現代医学的治療に加えたもう一つの治療方法として対応いたします。院内・院外ともに開かれた東洋医学科を目指し精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

医師のご紹介

小児科 教授 菊池 透 (キクチ トオル)

当科は、埼玉県唯一の小児の肥満症専門病院です。独自に作成した小児肥満症・生活指導ノート「SMUスマートダイアリー」を用いて、行動療法的手法を利用した、患者さんに合わせた無理のない生活指導を行っております。おかげ様で小児科クリニック、学校等から、100名を超える小児肥満症患者をご紹介いただいております。1年間の通院を継続していただければ、約7割の患者さんで肥満度が減少しております。また、当科は小児内分泌・糖尿病の認定専門病院でもあります。1型糖尿病、2型糖尿病、低身長、思春期早発症、甲状腺疾患、先天代謝異常症などの多くの患者さんの診療も担っております。身体的なことだけでなく、心の成長も支援するよ

うに心がけております。引き続き、患者さんのご紹介をお待ち申し上げます。



血液内科 教授 高久 智生 (タカク トモイク)

本年4月より埼玉医科大学病院血液内科に赴任して参りました高久智生（たかくともいく）と申します。当科では、悪性リンパ腫や白血病、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍のみならず、特発性血小板減少症や血友病などの様々な血液疾患に対応出来る診療体制を整えております。なかでも私は慢性骨髄性白血病（CML）を専門とし、個々の患者さんに最良の医療を提供するために、国内のみならず海外においても様々な活動を行っております。CMLは予後不良な疾患でしたが、2000年にチロシンキナーゼ阻害剤が開発されて以降、多くの患者さんで健常の方と同じ生命予後が期待できる疾患となっております。しかし、治療を中止後も再発しない無治療寛解の維持が可能な患者さんは20~30%程度にとどまり、治療の長期化に伴う合併症や、高額薬剤費負担など多くの課題が残さ

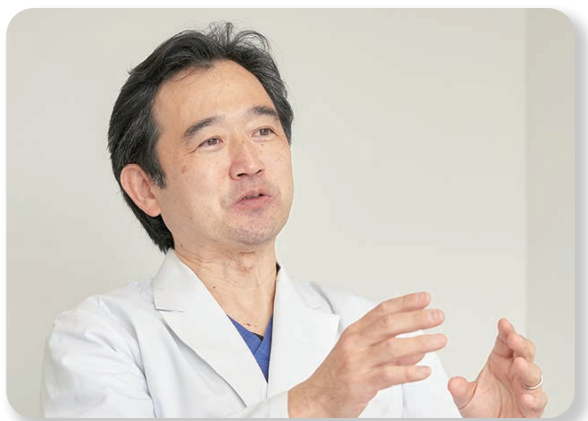
れております。これらの問題を解決するためには、他のがんと同様に早期発見と早期治療が重要です。血液検査で白血球が高値の場合には一度ご相談下さい。





泌尿器科 教授 篠島 利明 (シノジマ トシアキ)

2024年10月1日付で埼玉医科大学泌尿器科教授を拝命いたしました。平素より地域の医療機関の皆様には大変お世話になっており、この場を借りて深く御礼申し上げます。



当科では下部尿路機能障害、尿路結石症、尿路感染症、機能性副腎腫瘍など良性疾患を中心とした泌尿器科全般の診療を提供しています。泌尿器がんでは国際医療センター泌尿器腫瘍科と連携した治療を行っています。私の専門は下部尿路機能障害と女性泌尿器科疾患です。泌尿器科にかかっているけれども良くなならない！というお叱りを受けることもあります。まずは患者さんの訴えに真摯に耳を傾けて、個々の患者さんに応じた解決方法を模索しております。トイレのトラブルがなかなか良くなならない患者さんがいらっしゃいましたら、男性女性を問わずぜひご紹介いただければ幸いです。

外科・消化器外来センターに関するお知らせ

当院における消化器診療は、消化器内科・肝臓内科（持田智診療部長）、消化管内科（今枝博之診療部長）、および消化器一般外科（浅野博診療部長）において患者さんの病態等に合わせて連携し行っています。2024年4月から消化器肝臓内科の胆膵専門医の水野卓准教授が本館3階の外科外来センターで診療をおこなっています。これにより内科外科共通の患者さんの移動が少なくなり、医師同士の連携もより深くなっています。

2024年12月から消化管内科外来を前述の本館3階に移動し、月から土曜日まで診療することになりました。これにより消化器関連の3診療科が揃うことになり、医師同士の連携もより強固となり、患者さんにとっても同日に内科外科を同じ場所で受診頂くことが可

能となります。

これまで外科外来センターであった名称も外科・消化器外来センターとなりました。今後益々診療の質向上に向けて取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願い致します。



左から 今枝先生、浅野先生、水野先生

日本は世界一の長寿国であり、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になるものと予測されています。認知症は発症しても、工夫により、普段通りの生活ができると言われています。もの忘れが多く、生活に支障が出ているなどの悩みに対して、認知症看護外来では認知症の方や周囲の方に日常生活での工夫、関わり方のポイントなど、「住み慣れた地域で人生の最期ま



認知症ケアチームメンバー

で過ごせるための支援」を行っています。

また、認知症の方は環境の変化が苦手な方が多く、入院生活に不安を感じている患者さんもいらっしゃいます。「認知症ケアチーム」では、多職種が協働し認知症の方が安心して療養生活を続けられるよう、活動を行っております。

私は「認知症は長生きの勲章」だと思っています。そう考えると認知症になるまで長生きできたと前向きに考えられると思います。最近もの忘れが気になる、家族が認知症と言われたなど、どんなに些細な事でも相談をお受けいたしますのでお気軽にご連絡ください。「その人らしさ」を大切にお迎え致します。

認知症看護認定看護師
石山 寛人



第16回 診療連携シンフォニーを開催しました

埼玉医科大学病院診療連携シンフォニー（以下、シンフォニー）を5年ぶりに学内の会場にて12月5日に開催致しました。

報告会形式にて、感染症科・感染制御科より「ポストコロナについて～罹患後症状を含む最近の話題～」として、COVID-19統計等について、また病院診療部より当院の診療状況等についてご報告いただきました。

そして、坂戸鶴ヶ島医師会より当院との診療連携についてご報告をいただきました。

シンフォニーは、今回で16回を迎え、約120名の参加者のもと盛況に開催することが出来ました。これも先生方のお力

添えと感謝致しております。

今後も医療連携の構築に貢献できればと思っております。引き続きご理解ご協力戴きますようよろしくお願い申し上げます。

埼玉医科大学病院
診療連携シンフォニー 事務局



医療機関の方へ

● 提携医療機関・登録医制度及びインターネット予約（カルナ予約）について

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ります。

目的

医療をとりまく環境の変化は地域の医療機関相互の連携を中心とした病院・医院（診療所）のあり方を大きく変えてきています。特に最近は大病院指向が強く、大病院では病態に応じた適切な治療が困難な状況になっています。そこで埼玉医科大学病院と地域医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために、相互が協力・緊密な医療提携の許に、それぞれの機能の向上を図り、かつ地域医療の充実、発展に資することを目的として「提携医療機関・登録医制度」を創設いたします。近隣（関東エリア）の施設を中心に病診連携の推進に向け登録をしております。

インターネット予約（カルナ予約）

インターネット（カルナ予約）にて、CT検査、MRI検査、アイソトープ検査、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査及び診療科（一部除く）の予約が取得できます。患者情報（診療情報提供含む）を入力していただくことで、受診日の予約ができます。紹介患者さんは受診日に初診受付に寄らずに、直接診療科又は検査受付にてお待ちいただけます。なお、提携医療機関（登録医）に申し込まれた医療機関のみがシステムの利用条件になります。

【詳しくは 当院ホームページ「医療機関の方へ」

→「地域医療機関との病診連携システム」→「お申し込み方法」をご覧ください。】

● 予約センター（電話初診予約）について【予約センター：049-276-1179】

☎ **予約受付時間** 8:30～17:00 月曜日～土曜日（祝日・年末年始を除く）

電話でご紹介頂く患者さんの初診予約を行います。紹介状をお持ちの初診患者さん専用となります。

ご紹介患者さんの受診科が決まりましたら、紹介状と一緒に電話初診予約ご案内書を患者さんへお渡しください。お渡しいただく際に、患者さん自身で予約センターへ電話連絡の上、予約をとってから受診いただきますようご案内お願いいたします。

※ただし、予約枠の無い診療科がありますので、予めご了承ください。

なお、患者さん自身で電話予約ができない場合は、お手数ですが、医療機関様よりご連絡いただけますようお願いいたします。



電話初診予約ご案内書

救急患者のご紹介は直接、救急センターへご連絡ください。
TEL：049-276-1199 FAX：049-295-8007

埼玉医科大学 建学の理念

- 第1 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の 期待する医療人像

高い倫理観と人間性の涵養
国際水準の医学・医療の実践
社会的視点に立った調和と協力

●埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

●病院の基本方針

- 1. すべての病める人々にまごころを
もって臨みます。
- 2. 安心で質の高い医療を実践します。
- 3. まわりの医療機関と協力し合います。
- 4. 高い技能を持つ心豊かな人材を
育成します。
- 5. より幸せとなる医療を求めた
研究を推進します。

●患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。
これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- ① ひとりひとりが大切にされる権利
- ② 安心で質の高い医療を受ける権利
- ③ ご自分の希望を述べる権利
- ④ 納得できるまで説明を聞く権利
- ⑤ 医療内容をご自分で決める権利
- ⑥ プライバシーが守られる権利

●小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。
これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- ① こどもが最善の治療を受けて
生きる権利
- ② こどもが暴力から守られる権利
- ③ こどもが能力を十分に伸ばせる
ような医療を受ける権利
- ④ こどもが自分の診療について
自由に意見を述べる権利

☎ 連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター	: 049-276-1199	医療福祉相談室（退院調整）	: 049-276-2119
地域医療連携室	: 049-276-1876	入退院・患者支援室	: 049-276-1484
予約センター（外来初診予約）	: 049-276-1179	セカンドオピニオン受付	: 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（22号）

発 行：埼玉医科大学病院
発行責任者：篠塚 望
編 集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者：池園 哲郎・中里 良彦
電 話：049-276-1876 地域医療連携室
住 所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
発 行 日：2025年1月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。